主催団体挨拶

綿貫民輔

全国道路利用者会議会長

本日会場には、全国各地から生活道路や地域活性化のための道路など、真に必要な道路の整備を求めて、多くの皆さんが集まっている。ご来賓の皆さん方には、道路整備を求める切実な声に対して、深い理解と積極的なご支援、ご協力をお願いする。また、お集まり頂いた皆さん方には、日頃の活動に深く感謝申し上げる。

今、道路を始めとする公共事業は、「公共事業悪玉論」の下で、大変厳しい状況におかれている。本当に公共事業は悪なのだろうか。新政権は「コンクリートから人へ」の政策転換のために、公共事業削減４カ年計画を策定し、国土交通省の所管事業は、平成22年度予算において４年分を一気に削減した。その結果、平成22年度の公共事業費の予算は対前年度比で18・3％の減となっている。公共事業のピークは平成10年度だったが、そのピーク時の４割を切るという状況である。政府は平成23年度の概算要求においても、社会保障費の自然増１兆３，０００億円等を捻出するため、各省に対して10％の削減を課している。また、先の第三弾の事業仕分けの評価結果によれば、来年度の道路整備予算は、概算要求額から更に10～20％程度を圧縮するとの評価を出している。

いったい道路整備の現状をどのように認識し、どの様な議論がなされた評価結果なのか、全く理解出来るものではない。既に、今の予算では、道路の維持管理すらも十分に行うことが出来ない状況にあり、落橋など道路の安全性等に関して、国民に対する責任の所在はどこにあるのか、あまりに無責任なやり方ではないでしょうか。無駄の削減は当たり前のことだが、無駄の削減によって子ども手当等のマニフェスト実行のための財源が捻出されたのでしょうか。これからも増え続ける社会保障費の財源のために、いつまでも公共事業費が犠牲になることには納得がいかない。政治主導という言葉が、うつろに聞こえるのは私だけではないと思う。本当に道路整備は十分なのか。公共事業は不要なのでしょうか。

全国には、日々の経済活動、通勤、通学、医療体制などすべてに影響する、生活を支える「命の道」の整備を求める声が溢れている。更には、激動する国際化の中において、我が国が発展していくためにも、早急な道路整備は不可欠である。だからこそ、道路整備には現状を踏まえた長期的な考え方が必要であると思っている。

ここ10年間、アメリカやヨーロッパ各国のインフラ整備への投資額は急激な増え方を示している。財政の厳しいアメリカにおいても、景気対策と景気刺激を目的に、今後６年間で４兆２，０００億円のインフラ投資が計画されている。

現政府は、道路整備の現況をもっと正しく把握して、将来の国民生活の安全や経済発展、国際競争力のアップなどに向け、道路整備の長期的な計画等を我々国民にしっかりと見せるべきであると思う。道路特定財源制度が廃止された後も、暫定税率が維持されたまま一般財源となり、我々は高額な税を負担したままの状況にあり、そうした中で道路予算が大幅に削減されていくことに、納得出来ないのは当然のことだ。

私は、政治は「地方が良くなれば、日本が良くなる。日本が良くなれば、地方が良くなる」という信条を持っていなければならないと考える。地方が良くならなければ絶対に日本は良くならない。道路整備はそのシンボルだと思う。

全国各地域を代表して、本日ここにお集まり頂いた多くの皆さん。我々の要求である「安全・安心の道づくり」の実現のため、国民の声として言うべきことを言い、行うべきことを行おうではありませんか。

将来の子供や孫の世代のために、総力を挙げて頑張ろう。

主催団体挨拶

東京都知事 石原慎太郎

全国街路事業促進協議会会長

当時の最高技術を集め建造された豪華客船「タイタニック号」は、処女航海でイギリスに向かう途中、南下する氷山にぶつかったのだが、乗船していた専門家達は、「絶対、まあ大丈夫だ。絶対、大丈夫」と太鼓判を押したものの、結局、大西洋の藻屑と消えた。今の我が国の体たらくを見ていると、「タイタニック号」ではないが、下手をすれば沈んでしまい、余程国民がしっかりしないと、子孫に恥を残すことになる。

気鋭の評論家・福田和也氏が1996年に「なぜ日本人はかくも幼稚になったのか」という論文を発表したが、彼の主張する「幼稚な人間」とは、ＩＱが低いとか、人が知っている事柄を知らない人間ではなく、何が肝心かが分からない人間、そして肝心な問題について考えようとしない人間が幼稚というわけだが、日本人はそうなってきた。

今の政府は、まさにそれを象徴しているといってよく、例えば、この予算で進んでいけば、どういうことになるのか。「公共事業は景気浮揚の最大の引き金」といったケインズ理論が、皮肉な結果だけど現政権が照明してくれるのではないか。

国の将来を考えた場合、子供が減り、人口が増えないのは困るということで、子ども手当も結構だけど、支給されたお母さんに使い道を聞いたところ、「7割が貯蓄」という調査結果が出ている。還流しない金を使っても仕方ないということだ。

東京に子弟が学んでいる学校に対する補助問題で、都も美濃部都政時代から金を出しており、来年度の予算で増額するかどうか議論になっている。

私共の同胞数百人が拉致され、その手助けをした朝鮮総連の子弟達を教える費用で、しかも日本を敵視した教育を行っているといわれ、内容をチェックしようにもチェックさせない。将軍様と称する最高指導者の肖像写真を飾るのを問題にすれば、余計なことを言うなと反発する。その国の学校に何故私共の税金を使わねばならないのか。そんな金があるなら、他に使ってもらいたい。道路とは言わない、工事の一本にでも使ったらいい。

私達が投資する場合、何が肝心か、優先順位はどれか、プライオリティが分からなければ財政的に経済効果を生まず、税金の無駄遣いということになる。東京の立場で申すなら、東京は日本の心臓。それが美濃部都政では、公共事業が悪とみなし全てストップされ、心臓に必要な血管が出来ていないのである。

自民党、建設省が愚かと言うべきか、私は知事になって初めて凍結を知り、当時の扇千景国土交通大臣に凍結を解除してもらって予算要求が可能になったわけだが、どうもそれが危なくなってきた。

会場の皆さんも地域、地域で大事な道路を抱えておられることと思うが、心臓の血管が詰まると国は死んでしまう。東京の道路が東京のためだけでなく、日本国全体のためだと思っている。

しかも公共事業を相対的に悪とし、「コンクリートから人」というのも結構だが、キャッチフレーズ、センチメントとして人の心を打ったとしても、そんなものは国を興すことにならない。ましてや反日教育をやっている外国人の子弟に税金を支出するなど、本末転倒というか、物事の優先順位が分からない内閣は、早々に辞めるべきだ。

国が傾いて、傾くだけでなく、元に戻す前に沈んでしまうのではないかと危惧している。とにかく危機感を持つ必要がある。この国は、何とかなるだろうでは済まないところまで来ており、道路問題にしても、日本をどうやって繁栄させるか鍵を握るもので、大きな声を揃えないと事は動かない。皆で頑張ろう。

来賓挨拶

古賀一成

衆議院国土交通委員長

今日は本当に私にとっては懐かしいというか、思い出深いこの大会、こうして皆様大勢の方ご参集の下開催されることと、まずはお慶び申し上げるというより、それだけ危機意識が高まっているのだろうと思う。

本会議があり、とりわけ国土交通委員会、あと４本の法律を抱える中、馬淵国土交通大臣、参議院において問責決議を受けるという状況が見え隠れする中、次の法案を審議していいものか、理事懇談会を断続的にやっていたものだから、つい委員長として遅れた次第です。

実は30年前、道路財源がいわゆる一般財源の第２次オイルショックで、一般財源化すべきという風の中で、道路局で五箇年計画、道路政策、財源の担当をしていた。その時は、西ドイツと東ドイツはまだバラバラで、西ドイツだけでも当時高速道路は５，０００㎞。アメリカも勿論インターステートハイウェイが既に９万㎞近く。そういう中で、日本は僅か２，０００㎞、その時に道路整備はもういいんじゃないかという道路財源戦争が火がついた時に道路局にいた。当然、発展途上もいいところのこの日本の道路が、こういう状況の中で一般財源化されることは許し難いことだということで頑張った。以来、30年の月日が立ったが、今日お見えの先輩の沓掛哲男先生、当時の道路局長、実は中国に高速道路の有料道路制度の在り方を教えに調査団を派遣された。この20年間で中国はどうなったか。実はアメリカを追い越すだろうと言われる８万㎞位の高速道路の巨大なネットワークを造り上げた。

日本は高速道路１本とってもまだ１万㎞。これからの日本、高齢化社会を迎える、地方が廃れていくという中で、社会資本の中の社会資本と言ってもいい道路について、今の政治状況、財政難だということもあり「もういい」という議論もあるが、私は別に３つのベネフィット、交通事故が削減される、時間が短縮される等、そういった３つのベネフィットで道路の良し悪しを決めてはいけない。もっともっと深く、先程指先に温泉町があると女将からお話があったが、日本に生き、地域で文化を育み、子供を育ててきた地方、日本の島にとって、本当に道路は他の社会資本では言い尽くし難い総合的な機能を持っていると思っている。今、道路に関する本当に深い原点の議論が、財政論の中で押し切られようとしている中、私も党内、或いは委員会においても、深い道路整備の意義というものをしっかりとコンセンサスになるまで私自身問うていかないと、別に道路族とか、エゴのためでもない、日本という社会、そして経済の活力を維持していくため、何としても軽薄なる論議から深い道の論議へ持っていくように努力していかなければならないと思っている。

そういう面でも、是非皆さん方も道にはこういう命、こういう安心、こういう生活がかかっているということを、徹底して訴えて頂き、そして団結して我々政治家を揺り動かして頂きたいと思う。私自身はライフワークと思って、今後共取り組んでいく所存である。今日は綿貫民輔会長と久しくお会いしたけれども、是非いろんな意味で連携、ネットワークを組みながらやっていこうではありませんか。大変遅れましたけれども、この一言を申し上げたくて参上した次第でありますます。本大会、本当にご苦労様です。

来賓挨拶

小泉昭男

参議院国土交通委員長

本日は全国各地から多くの関係の皆さん方にご参集頂き、この様に盛会に、この大会が開会されたことを心からお祝いと、そして皆さんの勇気に心から敬意を表したい。

道路整備事業においては、国土のミッシングリンクの解消、生活に密着した道路、街路の整備促進、道路資産の急激な高齢化に伴う適切な維持管理・更新などが極めて重要な課題となっていることは論を待たない。こうした課題に答えていくために、安定的な予算措置が求められているということは言うまでもない。しかしながら、先程からの挨拶にもあった通り、道路予算は大幅に削減され、今後についても所要の道路予算が確保されるか、必ずしも明確とは言い難い現状にある。このことは、国民生活の安心、安全を守る観点からも、全国各地域に深刻な懸念と不安をもたらすものであると危惧している。

こうした中、参議院国土交通委員長を務める私としては、皆さんと共に安定的な財源の確保、地域が熱望する道路整備の促進に向けて、最善を尽くしていく所存だ。

最後に、皆さんの安全・安心の道づくりに対するご熱意と、ご尽力に改めて敬意を表すると共に、皆さんのご健勝と、一層のご発展を祈念して挨拶とさせて頂く。